

飲酒に起因する膀胱破裂の1例

え はら しょう じ
江 原 省 治

キーワード：膀胱，破裂，飲酒，外傷

要 旨

飲酒後の膀胱破裂の1症例を経験した。症例は65歳，男性で飲酒後，椅子の肘掛で下腹部を打った。深夜より腹痛が出現，下腹部が膨満し，翌日，外来を受診した。腹部造影CT，超音波断層検査で膀胱右頂部に膀胱壁の断裂を認め，膀胱破裂の診断となった。腹腔内には尿の貯留はなく，腹膜外膀胱破裂と診断，開腹手術を行った。本症例は飲酒後の外傷性膀胱破裂であったが患者本人は下腹部の鈍的外傷の記憶がなかった。飲酒後の膀胱自然破裂の中には外傷性破裂が少なからず含まれているものと考えられた。

はじめに

膀胱は骨盤腔内にあり，外傷を受けにくいとされているが，過伸展状態では軽微な鈍的外傷でも破裂する場合がある。今回，飲酒後に本人の記憶にない程度の軽い鈍的外傷により生じたと考えられる膀胱破裂の1症例を経験したので報告する。

症 例

患者：65歳，男性

主訴：腹痛，腹部膨満感

家族歴：特記すべきことなし

既往歴：42歳より高血圧症で治療，53歳で脊椎分離症，54歳，62歳時にそれぞれ胃ポリープ，大腸

ポリープの治療を受けた。

現病歴：2005年7月12日午後4時ころより午後9時30分ころまで飲酒（日本酒換算で約8合）する。尿意はあったが我慢して帰宅する。午後10時ころ回転椅子の肘掛部分で下腹部を打った（家人が目撃するも本人は記憶していない）。同年7月13日深夜，排尿なく，嘔吐した。早朝より腹痛，腹部膨満感が強くなり，近医を受診，腸閉塞が疑われ当院へ紹介となった。

現症：身長161 cm，体重70 kgで，体温は37.7℃と軽度上昇，血圧は180/95 mmHgと上昇，脈拍は94/分で頻脈を示していた。眼瞼結膜には貧血はなかった。腹部は下腹部を中心として全体的に膨満し，右側下腹部を主体として圧痛と反跳痛を認めた。腹部に明らかな外傷痕はなかった。両側CVAに腹部へ響く押打痛を認めた。前立腺は軽度に腫大するも，良性所見で，外陰部には異

Shoji EHARA

出雲市立総合医療センター

連絡先：〒691-0003 出雲市灘分町613番地